

**取組 1 4**      **ふるさとの歴史や先人の歩み、文化、自然を学ぶ**

**○ 現状**

本県には、先人の営みが脈々と連なる歴史、後世に伝えたいすばらしい伝統や文化、そして美しい自然があります。子どもたちにふるさとの歴史と文化、自然を伝え、ふるさとへの愛情と誇りをはぐくむ取組を推進しています。

・学校教育におけるふるさと学習

地域の歴史や産業、生活の様子、また地域発展に尽くした先人の働き等を教えることで、地域社会の一員としての自覚を持ち、同時に地域への誇りと愛情をはぐくみます。

また、自然体験やボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動等を積極的に取り入れることで、学校ごとに特色のあるふるさと学習を行っています。

**(ぼくたちわたしたち学校自慢)**

児童生徒が創意工夫を生かした「特色ある教育活動」を実践している小中学校に対し、「ぼくたちわたしたち学校自慢」として表彰しています。平成20年度は、小学校29校、中学校13校が表彰されました。

・「そろばん学習」 藤岡市立平井小学校

「和算の大家・関孝和」の出身地である藤岡市の平井小学校では、2～6年生を対象にそろばんを使った学習を行っています。

そろばんは、くり上がりやくり下がりの計算の仕組みが目に見え、子どもたちが数を理解する上での大きな助けとなっています。



・「シラネアオイの植栽」 六合村立六合中学校

六合中学校では、「郷土の自然に触れる体験学習」として、野反湖に面した八間山でシラネアオイの植栽を行い、貴重な高山植物の復元をめざしています。

植栽活動には、地域住民を始め、県内外のボランティア、関係機関等が協力し、今までに数万本にも及ぶ苗を植栽しています。



・社会教育におけるふるさと学習

本県には上毛かるたや群馬交響楽団など、全国に誇る文化的な宝があり、これらを通して、県民はふるさとの歴史や文化、自然に親しんでいます。

**(上毛かるた)**

上毛かるたは、一般公募した題材から群馬の歴史や偉人、名所、名産等を詠み込んだもので、浦野匡彦氏（財団法人群馬文化協会初代理事長）を中心に考案、編集委員会で検討され昭和22年12月に発行されました。

県内の小学生を中心に競技大会等が開催されるなど、現在に至るまで広く県民に親しまれており、群馬県出身者にとっては同郷人の「しるし標」ともいえるべき存在です。



### (群馬交響楽団)

昭和20年、戦後の荒廃の中で文化を通じた復興を目指して「高崎市民オーケストラ」が創設され、のちに「財団法人群馬交響楽団」と改称して現在に至ります。

児童生徒を対象とした移動音楽教室では、延べ590万人以上の子どもたちが鑑賞しているのをはじめ、県内各地での演奏活動により、群馬県の文化の象徴として県民から幅広く支持されています。



### ○ 課題

- ・総合的な学習の時間が削減されることで、子どもたちがふるさと学習に取り組む時間の確保が難しくなること
- ・教員が地域文化について十分に理解すること

### ○ 取組の方向

- ・地域にある学習素材を生かし、地域ごとに特色のあるふるさと学習を実施します。また、教室での学習と体験を通じた学習をバランス良く実施します。
- ・地域人材の一層の活用を促し、地域の伝統や文化を体験できる学習を推進します。

### ○ 主な事業の概要

事業の概要	担当部署
・「ふるさとの学び」実践事業 各校がふるさとのよさを生かした特色ある教育活動を実施できるように支援します。	義務教育課
・「ぼくたちわたしたち学校自慢」奨励 特色ある教育活動に取り組んでいる小中学校を「ぼくたちわたしたち学校自慢」として表彰し、各学校の特色ある教育活動を推進します。	義務教育課
・地域人材活用事業（地域の先生） 地域の歴史、伝統や文化について造けいの深い人材（地域の歴史研究者や高齢者など）の発掘及び活用等について支援します。	義務教育課

### ○ 達成目標

目標の概要	基準年度の状況 (H20)	目標年度の状況 (H25)
・「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」児童生徒の割合 ※全国学力・学習状況調査（文部科学省）	(小6) 50.4% (中3) 24.5%	(小6) 60% (中3) 40%
・「ふるさとの学び」の実践学校数の割合	——	50%
・「地域の先生」活用学校数の割合	20%	50%